

第 7 4 8 回

東京都青少年健全育成審議会

※ 発言者の氏名（都職員及び関係行政機関職員を除く）  
及び個人情報、一部企業名など、議事録の一部を伏せて  
掲載しています。

令和 5 年 6 月 12 日（月）

【出席委員】

飯塚 美紀子	委員
天日 隆彦	委員
渡瀬 昌彦	委員
石川 知春	委員
伊藤 廣幸	委員
加藤 美恵子	委員
下山 典子	委員
うすい 浩一	委員
田の上 いくこ	委員
土屋 みわ	委員
藤井 あきら	委員
柳川 雅彦	委員
稲澤 裕子	委員
大宮 由紀枝	委員
古畑 雄二	委員
馬神 祥子	委員
木村 総司	委員
小野島 直美	委員

【事務局】

若年支援担当部長	村上 章
若年支援課長	山本 理

午後 3 時 30 分開会

○若年支援課長 本日の傍聴人等をご案内いたします。本日でございますが、報道関係者は 0 人、傍聴人は 15 人となっています。

< 傍聴人入室 >

○若年支援課長 それでは、審議会を始めさせていただきます。現在、ご出席いただいております委員の方は 18 名で、条例第 24 条第 1 項に定めます審議会の開催に必要な定足数に達しておりますことをご報告申し上げます。

それでは、会長、議事進行をお願いいたします。

○会長 はい、それでは、ただ今から第 748 回東京都青少年健全育成審議会を開催いたします。お手元の議事次第に従いまして、議事進行を行ってまいります。

それでは、議事の 2 「条例に基づく事務の施行経過」について、事務局から説明をお願いいたします。

○若年支援課長 条例に基づく事務の施行経過等について説明いたします。「次第」と書かれております資料の表紙をおめくりいただき、1 ページをご覧くださいたいと存じます。前回の審議会以降の 5 月 15 日から 6 月 11 日までに実施いたしました本審議会事務局の動きをまとめたものでございます。

前回審議会のご意見を踏まえまして、優良映画として 1 作品を推奨することを決定いたしました。5 月 18 日にプレス発表を行い、5 月 22 日に学校関係者へ周知、5 月 23 日に公告いたしました。

また、青少年やその保護者等を対象にファミリールール講座を合計 94 回開催いたしました。

また、今月は出版業界自主規制団体との打合せ会は実施しておりません。

2 ページ目には、過去 1 年間の不健全図書類の指定実績、3 ページには過去 1 年間の優良映画の推奨実績を載せてございます。

続きまして、4 ページをご覧くださいたいと存じます。こちらは都が委嘱しております、東京都青少年健全育成協力員の 5 月分の活動状況でございます。委嘱しております協力員は 697 名、活動者数は 10 名、調査店舗数は 37 店舗でございました。

確認する図書類は、不健全図書として指定した図書類である「不健全指定図書類」、「成人向け」などの成人マーク付きの図書類である「表示図書類」、青い半透明のシールで止めることで青少年が容易に閲覧できない措置がされた小口シール止め誌の「類似図書類」の 3 種類です。

この3種類の図書類について、協力員の調査結果をそれぞれ表に示しております。

5月は、不健全指定図書類、表示図書類、類似図書類、青少年制限掲示について問題のある店舗はございませんでした。

また、不健全指定図書類に関する通報等に基づく立入調査もございませんでした。

5ページをご覧いただきたいと存じます。都の職員による独自の立入調査等の実施状況を記載してございます。1番目の表、書店等への立入調査では、表示図書類の取扱い不適切な店舗が1店舗ございました。

2番目の表、映像ソフト・ゲームソフト専門店等への立入調査では、問題ある店舗はございませんでした。3番目の表、カラオケボックス、まんが喫茶等への実態調査では、フィルタリングが導入されていない店舗が1店舗ございました。4番目の表、古物商への立入調査では問題のある店舗はございませんでした。問題があった店舗につきましては、その場での是正措置を含め条例を順守するよう指導いたしました。

6ページをご覧いただきたいと存じます。雑誌・ビデオ類等に関する自動販売機の届出等の施行状況についてですが、先月と変動はございません。自動販売機立入調査については、5月は実施してございません。

事務の施行経過については、以上でございます。

○会長 ご説明ありがとうございました。ただ今の説明について、ご質問等ございますか。

それでは、ご質問ございませんので、調査・審議事項に移りたいと思います。

本日は、優良映画の推奨についての諮問でございます。よろしくお願いいたします。

調査・審議事項は非公開となりますので、委員、事務局職員以外の方は、この段階でご退室をお願いいたします。

<傍聴人退室>

○会長 それでは再開いたします。本日の諮問事項につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

○若年支援課長 はい、それでは、本日の諮問事項についてご説明いたします。皆さまのお手元の資料のうち、「調査・審議事項」と記載されております資料に沿ってご説明いたします。

まず、1枚目をおめくりいただければと存じます。優良映画等の推奨に関する条例等を記載しております。条例施行規則の第2条、1号から6号のいずれかに該当するものであると推奨することとなります。

裏面をご覧くださいいただければと存じます。諮問第 1182 号でございます。今回は、2 作品を諮問いたします。

1 作品目は、「古の王子と 3 つの花」、制作者は記載のとおりでございます。令和 5 年 7 月 21 日金曜日から渋谷区の恵比寿ガーデンシネマほかにて公開を予定しております。

2 作品目は、「キャロル・オブ・ザ・ベル 家族の絆を奏でる詩」、制作者名は記載のとおりでございます。令和 5 年 7 月 7 日から新宿区の新宿武蔵野館ほかにて公開を予定しております。

1 作品目「古の王子と 3 つの花」の申請内容でございますが、4 ページ目をご覧くださいいただければと存じます。こちらは、申請者からの申請内容でございます。

対象区分は、小学生、中学生、推奨にふさわしい理由は記載のとおり。また、青少年の健全な育成に有益とする該当項目としては、第 2 号「青少年が知識を身につけ、教養を深めていくことに役立つもの」、第 3 号「青少年の人を慈しみ、大切にすることを育てるもの」、第 4 号「青少年の美しいものに対する感性を磨き、育てるもの」であることという申請内容でございます。

次のページをご覧くださいいただきたいと思います。こちらは、事務局の案でございます。事務局の案といたしましては、条例施行規則第 2 条の推奨基準に照らしまして、ページ下段にございませとおり該当項目は、第 2 号、第 3 号、第 4 号、対象区分は青少年、主として小学生、中学生を健全に育成する上で有益であると認め、小学生、中学生を対象に推奨を行うことといたしました。

なお、この作品につきましては、日本語吹替版での上映も予定されております。

続きまして、2 作品目、「キャロル・オブ・ザ・ベル 家族の絆を奏でる詩」の申請内容でございますが、7 ページ目をご覧くださいいただければと存じます。

こちらは、申請者からの申請内容でございます。対象区分は、中学生、高校生、推奨にふさわしい理由は記載のとおりでございます。

また、青少年の健全な育成に有益とする該当項目としては、第 2 号「青少年が知識を身につけ、教養を深めていくことに役立つもの」、第 3 号「青少年の人を慈しみ、大切にすることを育てるもの」であることという申請内容でございます。

その次のページをご覧くださいいただきたいと思います。こちらは事務局の案でございます。事務局の案といたしましては、条例施行規則第 2 条の推奨基準に照らしまして、ページ下段にございませとおり、該当項目は第 1 号、第 2 号、第 3 号、第 4 号、第 5 号、対象区分は青少年、主として、中学生以上を健全に育成する上で有益であると認め、中学生以上を対象に推奨を行う

ことといたしました。説明は以上になります。

○会長 はい、ただ今の事務局説明について、ご質問等ございますか。よろしいでしょうか。

それでは、今回は2作品ございますので、1作目について賛成なのか反対なのか、区分や項目についての評価、続いて、そのまま2作目について同じようにご意見をそれぞれお聞かせください。それでは、E委員お願いいたします。

○E委員 はい、まず、「古の王子と3つの花」につきまして、私は推奨に賛成でございます。推奨基準も事務局案どおり、また、青少年の対象区分につきましても事務局案どおりの小学生、中学生を対象ということでよろしいかと思えます。

この作品は、アニメ映画でございますので、日本のアニメの作り方と違うところにも子どもたちが興味を持つと思えますし、また、三つのそれぞれ違った時代のそれぞれの国の王の物語ということでございましたので、子どもたちがいろんな国の文化、また、生活を学ぶ上でも興味を持ってもらえるかなと思えますので、推奨に賛成でございます。

次の「キャロル・オブ・ザ・ベル」につきましても、推奨に賛成でございます。まず、推奨の基準につきましても、事務局のほうでは第1号、2号、3号、4号、5号ということで推奨理由を示してございますけれども、このとおりでいいかと思えます。そして、対象年齢につきましても、中学生以上を対象ということでよろしいかと思えます。

この作品は、まさに今ウクライナで起きている、この事実そのものが、この四十数年前にも、第二次世界大戦の時にも、ウクライナの人たちがこういう目に遭っていたということで、ウクライナ、ポーランド、ユダヤの、この3家族を描いた映画も切実に感じられるのではないかと思います。ぜひ、関心を持って見てもらえればと思えますので、推奨したいと思えます。以上です。

○会長 はい、ありがとうございます。では、A委員お願いします。

○A委員 はい、まず、「古の王子と3つの花」ですけれども、3人の王子の物語ということで、非常に楽しく見させていただきました。最初のエジプトの物語については、戦わずに知恵を絞って周りの方たちを味方にしていく、そういう姿、また、最後には黒人初のファラオになったという、そういうストーリーでしたけれども、自分自身がぶれずに誠実に生きていく大切さを感じました。二つ目の物語についても、城を追い出されて、貧しい方たちを救うためにいろんな知恵を働かせて、最後は運命を変える、そういう展開、これも非常に面白かったです。

それから、三つ目の物語については、揚げ菓子を通じて王女と出会って、宮殿を抜け出して、

本当のいわゆる幸せというのは王子とか王女の位じゃなくて、自分自身に生きていくこと、身近なところに幸せがあるということはこの作品を通じて感じました。

いずれにしても、きれいな映像でありましたし、子どもたちの健全育成についても非常にいい効果があると思いますので、事務局案のとおり推奨の基準については、2号、3号、4号、そして、該当項目については、小学生、中学生を対象ということをお願いしたいと思います。

続きまして、「キャロル・オブ・ザ・ベル」については、戦争というのは、弱い子どもたちに、一番被害が及ぶってということ、あと、「キャロル・オブ・ザ・ベル」というウクライナで古くから歌われている伝統ある民謡を通して、暗闇の中でもこの歌を歌うと楽しくなるというか、希望を持って戦争のさなかでも生きていける、団結、家族の絆を強めていくってというような、そういうものを非常に感じた次第でございます。この映画を通じて、人を大切に思うことを学べるということ、もう一つは、現在起きている戦争の世界情勢についても興味を持っていただけるのかなと思いましたが、これについても事務局案のとおり、推奨基準については、1号、2号、3号、4号、5号、そして、該当項目については、中学生以上ということをお願いしたいと思います。以上でございます。

○会長 はい、ありがとうございます。H委員、お願いいたします。

○H委員 はい、まず、「古の王子と3つの花」ですが、推奨に賛成でございます。対象区分、該当項目につきましても事務局案どおりでよろしいかと思えます。

この映画ですけれども、三つのストーリーともに何とか努力をして自らの手で運命を変えていく、しかも暴力には訴えないっていうもので、まさに今の世の中に必要なことを伝えているのではないかと感じました。明日に向かって進むための勇気をもたらえる良い作品だと思います。

それから、二つ目の「キャロル・オブ・ザ・ベル」ですが、こちらのほうも推奨に賛成です。対象区分、該当項目ともにこちらも事務局案どおりで良いと思います。こちらの作品は、今のウクライナの情勢の中で見るには本当にタイムリーで、1人でも多くの青少年に見てもらいたい作品だと思います。テレビのニュース等では、ロシアがどこを爆撃したとか、そういうニュースがほとんどですが、この作品で描かれているようにもっと深い部分、ウクライナで生活をする人々の本当の苦悩ですとか、侵略されている悲惨さですとか、それから、ウクライナの何度も侵略されている歴史について教えてくれる映画ですので、1人でも多くの青少年に見てもらいたいなと感じました。以上です。

○会長 はい、ありがとうございます。B委員、お願いいたします。

○B委員 まず、「古の王子と3つの花」ですが、世界に冠たる日本のアニメ作品とは一味も二味も違うフレンチアニメーションで非常に興味深く見ました。最初、1話、2話、3話のうちの1話だけが若干テイストが違うので、これはどういうことかなと思ったら、ルーブル美術館から依頼を受けて、この総監督が第1話を作ったっていうのを知って、ああ、なるほど、そういうことで1話だけがかなり歴史に忠実にトレースしているのは、そういう理由なのかというので得心をしました。対象区分、それから推奨基準等も事務局のご提案どおりで推奨に値するということが結構かと思えます。

それから、「キャロル・オブ・ザ・ベル」は、この作品のイサイエンコ監督が今もキーウで爆撃のさなかで、日本の配給会社とやり取りしながら、この公開についてずっと交渉していたということで、非常にこの映画の重さ、悲しみが、現実にまさに起こってしまって、胸苦しくなるような思いでしたけれども、非常に重要なテーマを幾つも提供している見るべき作品だと思います。これまた、事務局どおりの提案で結構かと思えます。以上です。

○会長 ありがとうございます。I委員、お願いします。

○I委員 はい、「古の王子と3つの花」についてですが、推奨でお願いします。第2号、第3号、第4号で小学生、中学生が対象としたいと思えます。海外アニメに触れる機会や、海外の文化や考え方、その時の時代の様子を学ぶことができますし、色彩もきれいで動きも面白く、工夫が感じられますので推奨でいいと思えます。日本語吹替版もあるということで、低学年の子どもたちにも見てほしいと思えました。

「キャロル・オブ・ザ・ベル」のほうは、戦争下の家族の物語ということで、普段の平和な暮らしが軍隊や権力によって一瞬で奪われていく様子が印象的でした。あとは、ウクライナ人のお母さんが尋問に遭って、ウクライナ民謡を普段は教えているということを見ると、ロシア人の軍人がそんなものは存在しないという考え方を押し付けて、なかったことにしようとする、そういう場面で、本当にいろんなものが奪われてしまうっていうことを目の当たりにして、戦争はとても恐ろしいことだなと改めて思いました。

あとは、タイトルの「キャロル・オブ・ザ・ベル」という歌は、少女の歌声も大変きれいで耳に残りまして、展開も分かりやすく読みやすいと感じたので、字幕の120分映画にはなりますが、子どもたちに見てもらって、今、ロシアによるウクライナ侵攻が行われているということも含めて戦争について考えてみてほしいと思えました。推奨項目は、事務局案の第1号から第5号、中学生以上でお願いしたいと思えます。以上です。



○会長 ありがとうございます。F委員、お願いします。

○F委員 まず、「古の王子と3つの花」ですが、3作品とも歴史などを交えて恋愛と幸福について描かれておりまして、アニメといえども非常に哲学的だなと感じました。個人的には、絵を見ているだけで非常に楽しいなとも思いました。対象区分、該当項目とも、事務局案どおりでいいと思います。

また、「キャロル・オブ・ザ・ベル」ですが、ソ連やドイツによる迫害を受け続けたウクライナ、ポーランド、ユダヤ人たち、これらの人々を通して、差別や戦争について、そして家族について考えさせられる映画だと思います。2時間ちょっとと少し長いなと感じたんですけど、事務局案どおり中学生、高校生での対象区分でいいのかなと思います。あと、該当項目も事務局案どおりでいいと思います。

○会長 ありがとうございます。次は、木村委員、お願いします。

○木村委員 はい、一つ目「古の王子と3つの花」につきまして、推奨賛成です。対象区分、該当項目についても事務局案で良いと思います。アートのような美しいアニメ、三つの短いストーリーなので、親子で楽しみながら感性を磨くことができるのではないかと思います。

2作品目「キャロル・オブ・ザ・ベル」についてですが、推奨に賛成です。対象区分、該当項目についても事務局案で良いと思います。歴史を克明に描かれており、子どもたちがこの映画を通じて、今日の世界情勢に関心を持ち、平和について自分事として捉え、考えるきっかけになればよいと思いました。以上です。

○会長 はい、では馬神委員、お願いします。

○馬神委員 はい、まず一つ目の「古の王子と3つの花」ですが、三つのお話、美しい映像で見せてもらうことで、子どもたちにとってそれぞれの歴史、文化に関心を持ってもらえるのではないかと思います。推奨に賛成です。対象区分、該当項目とも事務局案でいいと思います。

三つともそれぞれ運命を自ら切り開くといったようなテーマが一貫していますし、ともすれば、現在、自分の置かれた立場、環境、なかなか難しく立ちすくんでしまう子どもたちにとって、何か新たな視野ですとか、美しい映像も相まって爽快感を与えるようなものではないかなと思いました。

あと、2作品目「キャロル・オブ・ザ・ベル」ですが、こちらも推奨に賛成です。対象区分、該当項目とも事務局案でいいかと思います。こちらは、戦時下の社会を描いているんですけども、戦闘シーンを見せるということではなくて、その中で家族、親子の関係を丁寧に追って

いくことで、親の愛ですとか、弱い者への慈しみですとか、友情、また、不条理なことへの怒りなど、人としての本質、また倫理観などを育てていく、考えていくきっかけになるのではないかと思います。

ただ一方で、三つ、ポーランド、ウクライナ、ユダヤ、それぞれの家族が持つアイデンティティですとか、前提として知っておいたほうが、知識があったほうがより理解が深まるのかなとも思いました。そのような配慮もあればいいのかなとは思いました。以上でございます。

○会長 それでは、大宮委員、お願いします。

○大宮委員 はい、1作品目の「古の王子と3つの花」につきましては、最初は字幕等が難しいかなと思いましたが、先ほど吹替版があるということで、小学生の低学年からでよろしいかと思いました。事務局案に賛成で、推奨にも賛成です。対象区分、それから、該当項目ともに賛成でございます。戦う以外の問題解決の話であるということと、中でもファラオはエジプトの史実に基づいているという点は、歴史にも興味を持つきっかけになるのではと感じました。日本とはまた違ったアニメーションで、まさに表現の多様性を感じながら楽しめる作品だと思いました。

二つ目「キャロル・オブ・ザ・ベル」ですが、戦争の理不尽さを通して、命や、人間として何が大切なのかというような点を考えさせる良い作品だと思います。本作品を通して、人権とか、民族等を超えた深い部分を感じてほしいと思いますし、歴史や世界情勢に関心を深めていける作品なのかなと思いました。事務局案の該当項目、区分、それから推奨に賛成でございます。以上です。

○会長 ありがとうございます。小野島委員、お願いします。

○小野島委員 はい、まず「古の王子と3つの花」について、推奨でお願いいたします。対象区分、それから該当項目についても事務局案でよろしいかと思えます。日本では見られないアニメーションということで、新鮮な気持ち、感覚で見ることができて、非常に引き込まれる作品だったなと思いました。知恵とユーモアで暴力を使わずに問題を解決するっていうところは、非常に今、子どもたちに求められている必要な力かなと思ったので、ぜひ見てもらいたいと思いました。

二つ目「キャロル・オブ・ザ・ベル」ですが、こちらも推奨でお願いいたします。対象区分、それから該当項目についても事務局案でよろしいかと思えます。現在の戦争のない平和な日本の中高生が、今まさに戦禍にあるウクライナに思いを寄せてウクライナを理解する、ま

た、世界情勢にも目を向けて、戦争はしてはいけない、戦争は繰り返してはいけないということに改めて考えさせられるいい作品かなと思います。多くの中高生に見てもらいたいと思いました。対象区分、それから該当項目に関しては事務局案どおりでお願いいたします。

○会長 ありがとうございます。J委員、お願いします。

○J委員 はい、「古の王子と3つの花」について推奨でお願いいたします。対象区分と推奨基準は事務局案でお願いいたします。アニメーションは子どもだけのものではないという監督の言葉どおり、大人も楽しめて、非常に美しいアニメーションでした。運命に翻弄される3人の王子が自らの力で運命を切り開いて、そして、再び王の座に就くという、たくましく生きる姿が推奨にふさわしいと思います。戦わずして自分の力で切り開いていくというところに、学ぶべきところがあると思います。

それから、二つ目の「キャロル・オブ・ザ・ベル」ですけれども、これはウクライナ、ポーランド、ユダヤ、それぞれの一家が、結果的にはドイツの一家も巻き込まれていくわけですが、戦争に巻き込まれていく中で、侵略の相手によって敵にされたり味方にされたりして、その命を奪われていくという、戦争の残酷さを思い知らされる映画でした。そうした中でも、国や言語にとらわれず、歌うことで絆を強くして、子どもたちの命を守るという人として大切なことを訴える素晴らしい作品だと思いました。戦争は絶対にあってはならない、そういうことを改めて実感させられる映画で、ぜひみんなに見てほしいと思い、推奨でお願いいたします。対象区分も、それから推奨の理由も事務局案で賛成です。以上です。

○会長 ありがとうございます。では、C委員、お願いします。

○C委員 はい、「古の王子と3つの花」です。日本のアニメとは全く異なる独特のタッチのイラストのアニメーションでありました。監督さんが仰っている肌の色や年齢、性別で人を差別しないという作り方については、とても良いと思います。推奨においては、青少年を健全に育成する上で有益であると認められるか、内容が特に優れているか等々を考えると、ものすごく推奨したいというようなものではありませんが、子ども向けのストーリーであり、子どもが楽しむという点においては推奨に反対をするものではないという立場を取らせていただきたいと思います。区分については、私も小学校低学年の子どもを持つ親ですが、小学生で十分ではないかと思っております。項目については、事務局案どおりでお願いしたいと思います。

そして、2作品目の「キャロル・オブ・ザ・ベル」です。アンネの日記を思わせるような情景でありまして、突然、戦禍の中に入り、不自由な生活を強いられる3家族を描いたものです。

先ほども他の委員の方がおっしゃっておいりましたけれども、戦況によって民族の立場や、置かれる環境が変わってきてしまうというような状況も描かれております。また、現在もなお戦禍が続いていますウクライナについて関心を高めることであるとか、平和とは何であるかとか、そういったことを考えるいいきっかけになる映画であると思います。また、歌声がとても天使のようにきれいでありました。これについては、該当項目は2、3だけではなく、事務局案の1、4、5も含めることで賛成であります。対象区分についても、事務局案でお願いしたいと思います。

○会長 はい、ありがとうございます。G委員、お願いします。

○G委員 はい、「古の王子と3つの花」ですけれども、これは三つのお話がアニメの表現を超えて大変美しい作品が出来上がったなとは思いましたけれども、ストーリーが大変単調で、今の子どもたちには退屈なんじゃないかなと私は感じました。大人の方にはぜひ薦めて見ていただきたい、美術作品を見るような感じで見てくださいということでもいいのかと思いますけども、子どもにはいかがかなと思いましたので保留ということにさせていただきたいと思います。

「キャロル・オブ・ザ・ベル」ですけれども、これは、戦争を描いておまして、自由を奪われていくことの息苦しさであるとか、日常を破壊する戦争の怖さっていうものを大変感じることでできる映画だなと思いました。そういう中で、音楽を通して子どもたちと一生懸命生きていく人々の姿を描いておまして、推奨ということによろしいと思います。推奨の基準は事務局案どおり、対象としては、私は小学校の高学年からでもいいのではないかなと思いました。以上です。

○会長 はい、ありがとうございます。K委員、お願いします。

○K委員 はい、2作品とも事務局案に賛成で、推奨に賛成です。

まず、最初に「古の王子と3つの花」ですが、こちらは、推奨にふさわしい理由にもありますとおり、戦う以外の問題解決、そして、自分の運命を自ら切り開くという意味で、子どもたちにとって非常に意味のある作品ではないかなと思います。特に、3作、三つのお話がそれぞれ全く異なる表現方法、いずれも非常に美しい表現方法で、この中の、推奨の基準の中の「美しいものに対する感性を磨き、育てるもの」という観点から非常に意味があるのではないかなと受け止めています。1点だけ、ちょっと引っかかったのが、全て王子が活躍する物語であり、ジェンダーの観点からどうかなというのは個人的には気になったのですが、最後の三つ目のお話では、王女が自分の意思で、当時は王子ではない揚げ菓子売りに対して自分が選択していく、

そういう意味では、ジェンダーにも配慮があるのかなと受け止められました。

2 作品目の「キャロル・オブ・ザ・ベル」ですが、こちらはまずウクライナのこれまでのロシア、そしてドイツに占領されたという過去の歴史を知る一つのきっかけになるということ、それから、今の戦禍に置かれているウクライナの状況に思いをはせる、そういう意味で非常に、今、このタイミングで青少年に見てもらいたいなど、青少年に限らず大人にも見る価値のある映画だと思いました。この中で、ユダヤ人を虐殺したドイツの男の子も同じ人間だということと一緒に生活を支えていく、そういう状況には非常に心を打たれました。この映画をあらゆる人たちに見てほしいなど、ちょっと小学生は難しいので、こちらの対象区分のとおり中学生以上で適切だと思いますが、中学生以上の人たちにはぜひ見てほしいなと思いました。以上です。

○会長 はい、ありがとうございます。D 委員、お願いします。

○D 委員 はい、1 作目の「古の王子と3つの花」ですが、推奨でお願いいたします。非暴力であったりとかはいいなと思ったんですけど、ストーリーは非常に都合が良くて単純過ぎるなと思いつつ、あと、最後が必ず王子、王様と女王様が愛だのというようなお話が多くて、ちょっとストーリーは引かかるところはあったんですけども、全体を通して見ると映像がとてもきれいで、いい作品というか、面白く楽しめるものだなというふうに思いました。日本のアニメと違う雰囲気というのもありますし、映像がきれいというところもあるというところで全体としては推奨でいいのではないかと考えています。

あと、今、話を聞いていて思ったところではあるんですけども、1 話目だけ史実に忠実というのは、逆に、子どもにとっては結構分かりづらいのではないかなというのは思ったところです。2 話目、3 話目が特に史実ではないというところと、あと、2 話目の映像の表現が、登場人物みんな顔が黒く塗られていて、何でだろうなというのが、ここを見ていてずっと考えていたんですけども、そういった点からも、該当項目の部分なんですけど、2 号、3 号、4 号だけではなくて、5 号の思考力とか、批判力、また、観察力を養うもの等も対象になるんじゃないかなというのは思ったところです。あと、私も最初はどうかと思ったんですけども、見ていて面白かったというか、見てみると良かったので、高校生も対象に入れてもいいのではないかと思いました。

2 作品目の「キャロル・オブ・ザ・ベル」ですね。これも推奨でお願いいたします。私が一番印象に残ったのは、最後のほうでドイツ人の子どもが残された時に、父親の罪を子どもが引き継がないとか、そういうような表現をされていたと思うんですけども、ああいった戦争の状

況でも、どう乗り越えていくかというところの一つの示唆を与えてくれるものではないかなと思いました。作品自体が民族とか、宗教が違う個人個人が、国とかは対立していても、個人と個人はまた違うといったようなところを表現しておりますし、舞台は当時のポーランド領で、今のウクライナの土地で、かつ、宗教も多分ロシア正教とカトリックとユダヤ教とかですかね。宗教が違うとか、また、近代史でナチスドイツの話だったりとか、ソ連の侵攻の話だったりとか、独ソ不可侵条約とかですかね、とか結構、その辺は複雑に絡み合っているので、ちゃんと理解をするには、その辺の知識もあつたほうがいいのではないかと思いつつ、そこで出てくる家族のつながりだったりとか、人と人のつながりというのはすごく意味があるんじゃないかと思いました。なので、対象区分は、世界史を学ぶであろう中学生のほうがいいかなと思いますので、申請者又は事務局案どおりで、該当項目に関しても、事務局案で1号と4号と5号を出していると思うんですけども、それでいいと思います。以上です。

○会長 ありがとうございます。次は、古畑委員、お願いいたします。

○古畑委員 はい、1作品目の「古の王子と3つの花」につきましては、王子の純粋な心と勇敢さ、そして、美しい恋愛物語ということで、映画を見ている時は、本当に心を穏やかに、和ませていただく時間でありましたので、推奨でお願いをいたします。対象区分は、事務局案のとおりで、該当項目については、2号、3号、4号となっていますけども、主人公である王の考え、取った行動とかを見て1号と5号も加えてもいいかなと思います。

2作品目「キャロル・オブ・ザ・ベル」ですが、現在、ロシアとウクライナが戦争を続けている中で、戦争が招く悲惨な現実を見て思考停止してはならないと思いますので、推奨でお願いをいたします。対象区分、該当項目については、事務局案のとおりでよろしく申し上げます。

○会長 ありがとうございます。では、会長代理、お願いします。

○会長代理 はい、まず、「古の王子と3つの花」のほうですが、これについては、事務局案どおり推奨ということで賛成いたします。私も最初、あえて推奨する映画かなって感じが少しあり、ストーリーの単純さとか、そういうのも感じました。しかし、美しい映像ということ、ファラオの史実に忠実であること、多文化に対する理解、そういうことを総合的に考えまして、推奨でいいのではないかと考えます。

それから、もう一つの作品「キャロル・オブ・ザ・ベル」ですけれども、これも事務局案どおりの推奨でよろしいかと思えます。三つの家族が登場するわけですけれども、その後、加えてドイツ人の家族も登場しますが、次々と人が亡くなっていくという、非常に重苦しい映画で

すけれども、そういう中で、ウクライナ人の女性がユダヤ人、ポーランド人、ドイツ人、そういう自分以外の子どもについても、自分の危険を顧みず、分け隔てなく育てていく、そういう姿が人の心を打つ、そういう作品だと思います。そして、最後に、3人の少女が大人になって再会できる場面、これが、重苦しい映画ですけども、少し救いになるというか、良かったのではないかなと思います。

あと、ちょっと細かいことですけども、「キャロル・オブ・ザ・ベル」の申請者が書いている申請書の「推奨にふさわしい理由」という中で、下から4行目のとこなんですが、「ウクライナが第二次大戦下にソ連に侵略され、その後、ナチスに侵略され、さらにソ連に侵略されるという占領され続けた歴史を持つことを知ることで」というところですけども、ちょうど映画に出てきた舞台となったスタニスワヴフという町、ここはもともと第二次大戦が起きた時にはポーランド領であって、そこがソ連に侵略され、ナチスに侵略され、さらにソ連に侵略されると、これは当てはまるんですけども、ウクライナ全体について言うと、ロシア革命が起きて、すぐにソ連のほうに組み入れられているので、ここの表現、誤解を招きやすいかなというのが気になりましたけども、これは都の事務局でまとめられた推奨理由のところには、そこは削除されていますので、それはよろしいかなと思います。気になったので、付け加えておきます。

○会長 ありがとうございます。最後に私ですけども、1作目の「古の王子と3つの花」のほうは、委員の皆さんからもおっしゃっていた部分があるんですけども、ちょっと難しいかなってというのがあったんですが、ただ非常に誠実なフランス語で話されていて、吹替になってしまうのはしょうがないと思うんですけども、とてもきれいなフランス語で、非常に誠実に作った映画であるというふうに関心を感じ、そこから小学生、中学生のお子さんたちも何か感じ取っていただけるのではないかと思います。事務局の案に賛成です。

2作目の「キャロル・オブ・ザ・ベル」ですけども、自分が中学生のころアンネの日記を読んで非常に衝撃を受けた時のことを密かに思い出したりもしました。中学生、高校生がここからくみ取るものがあればいいなと思ひまして、推奨に賛成し、事務局案どおりでと思った次第でございます。

ということでございまして、本日、諮問されました2本の映画についてですが、1本目の「古の王子と3つの花」につきましては、保留としたいという方が1名、それから消極的な推奨という方が1名ございましたが、ほぼ大半の方が推奨するというご意見でしたので推奨ということで、よろしゅうございますか。

<「はい」の声あり>

また、対象区分や該当項目について、少し該当項目を広げるべきではないかというご意見もありましたけれども、基本的には事務局案どおりというご意見が多かったので、よろしゅうございますか。

<「はい」の声あり>

では、2本目の「キャロル・オブ・ザ・ベル」のほうでございますが、これについては、皆さん推奨するというご意見でよろしゅうございますか。

<「はい」の声あり>

はい。該当項目、対象区分につきましても、少し広げてもいいのではないかとご意見もありましたが、大半の方が事務局案どおりということでご意見いただきましたので、そのような形でよろしゅうございますか。

<「はい」の声あり>

はい。それでは、ありがとうございます。そのような形で答申をさせていただきたいと思っております。それでは、事務局から他に連絡事項ございますか。

○若年支援課長 はい、都民の申出は5月はございませんでした。また、次回審議会に諮問予定の映画はございません。事務局からは以上でございます。

○会長 ありがとうございます。何か委員の方でございますか。

○A委員 いいですか。

○会長 はい。

○A委員 すいません、ちょっと細かくて恐縮ですけど、資料の下にページ数を書いてもらうと大変にありがたいなと思います。

○若年支援課長 大変失礼いたしました。

○会長 よろしく申し上げます。

それでは、以上で調査・審議事項は終了となります。傍聴人の方が再入室するため、調査・審議事項の資料はしまっただけをお願い申し上げます。

<傍聴人入室>

○会長 それでは、議事を再開いたします。事務局から説明をお願いいたします。

○若年支援課長 はい、まず、本日の審議ですが、映画「古の王子と3つの花」及び「キャロル・オブ・ザ・ベル 家族の絆を奏でる詩」につきまして諮問を行い、推奨することが適当である



との答申をいただきました。

また、本日、審議会に報告した都民の申出はございません。

推奨映画のプレス発表は、令和5年6月15日木曜日、公告予定日は令和5年6月20日火曜日となります。

最後に、次回の審議会についてご案内いたします。令和5年7月10日月曜日、月曜日の15時30分から、場所は今回と同じこの会場を予定してございます。以上でございます。

○会長 それでは、本日はこれで終了させていただきます。お疲れさまでございました。

午後4時31分閉会